

支えあって ふれ合って…

糸の杜

社会福祉法人 光道園

No.44
2015. November

光道園 文化祭
ものがたり みんなで繋ぐ この瞬間

ライワークセンターお抹茶クラブ発表の様子



お抹茶クラブ

今年の文化祭では、ライトワークセンターお抹茶クラブの五名のメンバーが、お茶の先生方のご指導とご協力をいただき、利用者の方や職員にお抹茶をお出ししました。

ライトワークセンターでは、第二水曜日にゲストルームで、お茶の先生の指導を受けながら、お抹茶を点っています。日頃の生活とは違って、先生と挨拶を交わすところから、気持ちが徐々に引き締まっていくような気がして、懐紙を手元や胸元に收めると、お抹茶を点てるという気持ちが強まっています。

緊張しながら、和菓子を懐紙に乗せ、お客様にお渡しする時、美味しい和菓子でほっこりして貰える事を思っています。また、お茶を点てる音が聞こえて来ると、益々緊張が高

まりますが、お抹茶の香りが、緊張の高まりを抑えます。

文化祭では、ゆっくり落ち着いて飲んで頂けるようにと、私たちも香りに包まれながら、いつものお抹茶クラブでの練習をそのままに、お抹茶をお出しする事が出来ました。

普段の生活の中の、ほんのひと時の時間、疲れを癒したり心を和ませてくれる、お抹茶の香り、時々はこんな時間も必要だと感じています。

文化祭におけるお抹茶クラブの実演もこのような癒しの時間を提供できたと思います。

文　セルフ一課　松島利子
撮影　企画調整室　佐々木裕子



あいさつ



文化祭実行委員長

梅田 和紀

今年の文化祭実演は、十一月五日・六日の両日、光道園鯖江事業所で行われました。両日ともぽかぽか陽気で、会場内の皆さん熱気もあり汗ばむ程でした。

ご存知の通り光道園は鯖江と朝日との二事業所があります。しかし、光道園には模擬店や夏祭りなど色々な行事がありますが、この二事業所の利用者の皆様が集う全体行事は文化祭だけです。光道園全体で行つていた以前のクラブ発表会がその前身です。各クラブが一年間練習した成果を発表する場として存在するので、それを見たいと思う利用者の皆様も多いのではないでしょうか。

実演の内容はミックバラーズの演奏に始まり、太鼓・リズム・音楽・ピアノ・カラオケ・ギター等、今年もそれぞれの課で日々練習を重ねてきた成果を十分に發揮され、会場も和やかな雰囲気に包まれていました。

さて、今年のテーマは『ものがたり』

りみんなでつなぐ この瞬間』と決めさせて頂きました。「一年間各課で練習してきた、それぞれのものがたりをこの文化祭という瞬間にみんなで共有しよう」という意味合いでしたが、この二日間を通してもつと奥深いものがあると感じましたので、少し紹介します。

実は、クラブによつては何年・何十年も発表内容が変わらないものがあります。私自身は内心また同じ事やってているなと思いながら見ているのですが、利用者の皆様はその逆でとても楽しみにされていて定番になつており、大変盛り上がりました。この場面を通して私が感じたことは、自分がたりには、光道園に入所されてから利用者様一人ひとりの人生という意味も含まれている、いろいろなものがたりがあつて、それがつながつて今がある、ということです。

実行委員として、準備・日程調整・移動など大変なことが多くありますたが、利用者の皆様のものがたりつながりを大事にしていく文化祭を今年も無事終えることが出来てホッとしています。



文化祭

「ものがたり みんなで繋ぐ この瞬間」

表紙

- 2 お抹茶クラブ
- 3 文化祭実行委員長あいさつ
- 4 実演発表
- 5
- 6 展示作品
- 7
- 8 スキルアップコンテスト 2005 優勝 井波様
- 9 文化祭 あの頃
- 10 文化系職員（そば職人・看護師） 加藤令子さん
- 11 広告「陶華星」「フ・クレール」

絆の杜 第44号は、文化祭の特集です。じっくりと読んでいただけて、出演・出展された皆様の「ものがたり」を感じていただけすると嬉しく思います。

光道園広報紙委員会一同

みんなで繋ぐこの瞬間

文化祭 実演

平成二十七年十一月五・六日

光道園文化祭が鯖江事業所NN

ホールにて開かれました。

全施設の利用者の方々が集まり、各課工夫を凝らして十五プログラムがありました。

その中で今日いくつかの発表内容をご紹介します。



ライフルトレーニングセンター リズムクラブ



司会の二人



文 セルブ二課 出塙内 さやか

ひかり太鼓演奏

ひかり太鼓は、日々、太鼓の練習に取り組み、腕を磨く・・・というわけではなく、作業中心の生活をしている為、なかなかクラブ活動の時間を作ることができません。

文化祭前にも、結局一度しか練習することができませんでした。

しかし、「最高の演奏を披露したい」

という一心で、練習に取り組み、本番では全員の音が揃い、素晴らしい演奏を届けることができました。

メンバーの太鼓をたたくことが好きな思いと、熱いプロ魂のようなものを垣間見たようでした。

来年も迫力ある演奏が披露できるよう、そして新曲をご披露したいと思います。



これからも大好きな音楽と触れ合い、素敵な笑顔を見せて下さいね。

文 援護二課 坪川 聖奈

ピアノクラブ

ライトホープセンターのピアノクラブのメンバーは、堤善信さん、木村彰さん、大野吉之さん等の三名です。

毎週火曜日にピアノの先生に来て頂き練習をしていただいています。練習では、大好きな童謡を元気に歌いながら弾いています。

文化祭では発表会があり一年の成果を皆さん面前で披露しました。

いざ、皆さんの前で発表となると緊張が走り、静かに出番を待っている姿を見ていた私も緊張が伝わり「大丈夫かな・・・」と心配でした。会場いっぱいの大きな拍手に緊張から開放された安堵感と達成感で笑顔が見られていました。



ライトワークセンター ワーク太鼓



ライトホープセンター
三味線 小林悠一さん



合同ギタークラブ



プログラム



ライトホープセンター カラオケクラブ

さくら館のヘレンングループでは、盲ろう障がいのある方（視覚と聴覚の両方に障がいのある方）が生活をされています。

皆様にとって、手話は大切な「コミュ二ケーションツール」の一つです。その手話をつかって、ヘレングループでは、毎年文化祭で「手話コーラス」を披露しています。「手話コーラス」とは、その名のとおり、曲の歌詞を手話で表現し、複数人で合唱することを指します。「手話コーラス」の練習は、文化祭の約一ヶ月前から始まりました。本来のコーラスならば、皆の声が揃って、ハーモニーを奏でるものですが。しかし、盲ろう障がいのある方にとって、音楽に合わせることはもちろん、周囲の人と動きを合わせることも至難の業です。

また、手話が上手な人もいれば、そうでない人もいます。

難しい歌詞の歌もあります。そのため、ヘレングループの「手話コーラス」は、「手話でうたう」というよりは、「手話を通して、楽しく身体を動かす」ということに重点を置いています。職員が利用者の方、一人ひ

手話を通して、歌を届けよう

さくら館のヘレングループでは、盲ろう障がいのある方（視覚と聴覚の両方に障がいのある方）が生活をされています。

皆様にとって、手話は大切な「コミュ

ニケーションツール」の一つです。その手話をつかって、ヘレングループでは、毎年文化祭で「手話コーラス」を披露しています。「手話コーラス」とは、その名のとおり、曲の歌詞を手話で表現し、複数人で合唱することを指します。「手話コーラス」の練習は、文化祭の約一ヶ月前から始まりました。本来のコーラスならば、皆の声が揃って、ハーモニーを奏でるものですが。しかし、盲ろう障がいのある方にとって、音楽に合わせることはもちろん、周囲の人と動きを合わせることも至難の業です。

また、手話が上手な人もいれば、そうでない人もいます。



文 療護二課 鍋島 愛佳
今年は童謡の「ふるさと」に合わせて、手話コーラスを披露しました。会場からは、一緒に歌ってくれる声や、「上手だったよ」という言葉も聞こえてきて、とても嬉しくなりました。発表前は緊張した表情だったメンバーたちも、終わった後にはホッとした笑みがこぼれています。次は何の曲を、どんなステージ衣装で皆さんにご披露しましようか。来年も是非ご期待下さい。

とりの手を取り、楽しく手話を表現出来るように練習を重ねました。ヘレングループの「手話コーラス」と言えば、ちょっと変わったステージ衣装も特徴の一つです。いつもはしない化粧をしたり、ヒラヒラのワンピースを着たりすることで、普段とは違った雰囲気を感じ取っていただき、「ステージの上に立つ」という意識を高めています。



ライフルーニングセンター 音クラブ



ライトホープセンター 音楽クラブ



ライトホープセンター ガラクタクラブ

展示コーナー

瞬間

ワークセンター

力作です！
が丘ワークセンター

僕の顔、私の顔は
どれかな？
にこにこルーム



利用者の皆さん、職員、ボランティアの方の手形で作りました。
よく見てください。
「もえぎのなかま」が見えますか。
ライトホープセンター もえぎ館



毎日頑張ってます
デイサービスセンター
さざんかホール

アクセサリー販売中
ライフトレーニングセンター
さくら館

す。



花は花は花は～咲く～♪
ライフトレーニングセンター
きらら館



展示調整中
たねのいえ

エコな作品
デイサービスセンター
さざんかホール



文化祭展示



ステキな箸置きを
ライフルトレーニングセンター
きらら館

今年のテーマです。



子孫繁栄・貢献の象徴
正直・強さ・誠実・堅実・努力家
决策力と才知の象徴
温厚さと従順の象徴
正義感と信用の象徳
探求心と情熱の象徳

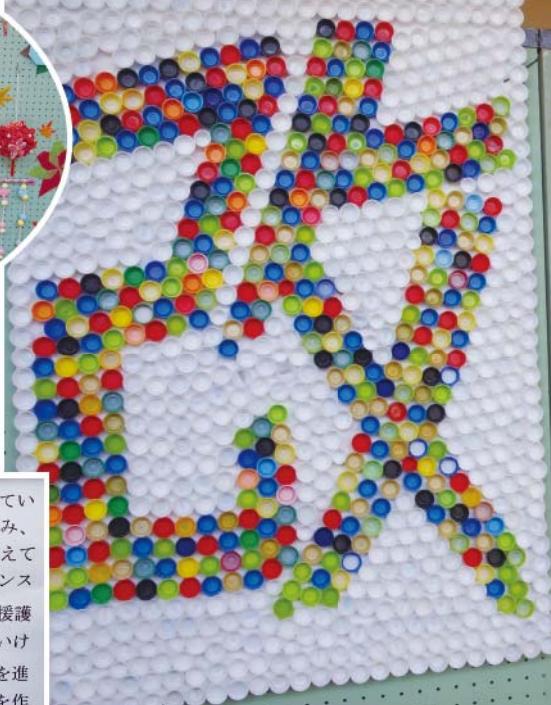
家族の愛と平和の象徳
利口と好奇心の象徳
積極的な行動と素早さの象徳
安全や保護や防衛の意図・敵意の象徳
無病息災と一日の終わりの象徳



十二支の特徴
お知らせします。
たねのいえ



帽子の世界へようこそ
ライフルトレーニングセンター
きらら館



改の字から先に作りました。
はねた部分を作るのが難しかったです。
ライトホープセンター あさぎ館

光道園の中でも活動的で元気だと言われている
援護二課ですが、近年は重度高齢化も進み、
今までの活動が出来なくなっている方も増えています。
利用者の中には気持ちと体のバランス
が色々合わない方もおられるため、
そこで援護二課の皆が安全で安心して楽しく生活していく
ように職員と利用者が一緒に支援の改革を行って
行きたいという想いを込めてこの文字を作りました。



よりどりみどりの
わんこ達
フ・クレール



ダイナミックな折り紙の世界です
ライフルトレーニングセンター
さくら館



会場準備中



光道園文化祭

物語 みんなで繋ぐこの瞬間



SELPスキルアップコンテスト優勝

十一月五日(木)に福井県社会福祉センターにおいて、第九回SELPス キルアップコンテストが行われました。

この大会は障がいのある方が各々の個性や能力に応じて、日頃の取組みの成果を相互に披露することにより、職業技能・就労意欲の向上を図ることを目的に開催されています。

「私の主張」部門の他に「作業」「調理」「接遇」の三つの部門があり、「私の主張」部門は①私の仕事②私の夢③私の家族の三つの項目から十三名の方がそれぞれに選んで発表されました。

そのなかで井波さんは「私の生きがい」という題で、光道園との出会い、そして入所当時から取り組まれている箱折りの作業について発表され、見事主張部門で優勝されました。おめでとうございます。



◆文化祭にて発表されている井波英子さん

私の生きがい

井波 英子

みなさん、こんにちは。今日は私の仕事のことについてお話をしたい

と思いこちらに寄せて頂きました。
どうぞよろしくお願ひします。

その前に自己紹介をさせて頂きま
す。私は昭和二十三年十月に大阪で
生まれ育った浪花のネコ井波英子で
す。そして三十一年に大阪市立盲学

校に入学し点字を習いました。

その後家庭科にも進み、五十三年
に卒業した後、しばらく経つて福井

県の光道園という施設があると聞き、
そこへ見学に行きました。

その利用者的人はみんな生き生
きしてとても楽しそうで、活気に溢
れているように感じ、私もこの授産

施設で働きたいと思いました。でも
家に帰ると家族はもちろん、親戚や
近所の人たちまでが大反対でえらい
騒ぎでした。「どこへも行ったことも

ないもんが、何をアホなこと言つて
んねんや。世の中のことも知らんく
せに大きくな」「たたくな」と父に怒ら
れ、母からも「あんたは黙つてここ
におつたらええねんや」と言われも
う大変でした。

それでも私は「行きたい」と何回
も何回も毎日泣いて頼み込み、泣々
でもやつと許してもらひ五十四年に
にわたりました。

光道園ライトワークセンターに入所
しました。

かず、毎日のように泣いてばっかり
いたので、‘ピース’というあだ名を
付けられました。

しかし最初の頃はそう簡単にはい
ませんでした。箱折り作業では、いろんな種類の
箱があり、メガネの箱やスポーツウ
エアの箱、お菓子の箱も折っています。
した。そしていつの間にか私もまと
もな箱が折れるようになり、今では
羽二重餅の箱を折っています。ひと
つの箱を任されている限り、私はそ
れを大事に、線を間違えないように
丁寧に、そして手で触り中でベラが
折れていないか確認して折る事を常
に心がけ、一生懸命頑張つていただき
ます。

そして何よりも一番大切な事は、
私のことをいつも心配し、励まし支
えてくれる親友とまわりの人達に感
謝しています。それと私は今の仕事
に生きがいと、充実した楽しい毎日
を送り幸せに暮らしています。

最後になりましたが、人間はいろ
んなことで失敗し、つまずき迷い怒
られてこそ、成長し成り立っていく
ものではないのかなって思うのです。
何か偉そうな事ばかり長々とお話を
して参りましたが、これで私の主張
を終わらせて頂きます。どうもあり
がとうございました。

『文化祭 あの頃・』

施設の建物が新築されたり、利用者の方や職員も入れ替わっていく中、文化祭のありようも年々少しづつ変わってきているようにも思えます。

今から三十年近く前、平成が始まると前のころ、当時の「クラブ発表会」の様子に記憶を遡ってみたいと思います。

作品展示と実演発表という形は、

今も変わりありませんが、実演では各課ともコーラスや楽器演奏等の音楽クラブの発表の他、劇クラブもほぼ全課が衣装や舞台背景、音響効果

大会に飛び入り出演をするグループもあったように記憶しています。さらに実演発表は舞台上だけでなく、体育館での盲人野球や、今となつては懐かしい響きの「GOGO大会」が、GOGOクラブメンバーを中心に行われ、汗と歓声が館内に響きわつていました。

また私が就職して間もない昭和五十年代後半頃は、剣道クラブ・柔道

クラブ、落語クラブ等もあり、それぞれ試合形式や演目を発表していました。

など含めて半年位かけた力作を発表していました。中にはドライアイスの煙幕まで用意し、凝りに凝ったものもありました。クラブ発表会で思い

若き日の江守所長(ギター)と木村彰さん(キーボード)と称し、各施設で

現在も施設をまたいで活動が続いているミックバラーズや、太鼓クラブ・詩吟クラブ・ギタークラブなどは、発表会が終わっても好きなメンバーが集まって年間を通して練習し、そこから園外での発表にもつながっていった活動です。

作品展示では一番多くの人が取り組んでいたのが玉のれんや手芸作品、農芸クラブも盛んでした。生花やお茶クラブも当時からあって、調理クラブと共に女性の利用者に人気を博

年度末行われた送別会や、カラオケ

大会に飛び入り出演をするグループもあったように記憶しています。

さらに実演発表は舞台上だけでなく、体育館での盲人野球や、今となつては懐かしい響きの「GOGO大会」

が、セリフと一緒に動きもつけた芝居をやりたいと話し合い、カット割りした台本と、演技づくりにこだわって、ビデオカメラで撮影した、ライツワークセンター劇クラブの、ビデオドラマ『おしん』です。

当時石田事業所にあった家庭実習室に、手づくりの囲炉裏端（いろりばた）セットをこしらえ、薄暗い照明の中、大根汁をすすりながら、とつとつと語るシーンや、近くのお寺の門前を借りたり、日野川河川敷まで行って、雪景色の中「おしんが」奉公に出る朝の口ヶまでやりました。

最上川上流にある寒村の貧しい小作の家に生まれた…あのNHK人気朝ドラの台本をもとに、メンバーが「おしん」「お母あ」「お父お」「婆ちゃん」等の役柄に扮し、アップ映像を多用した迫真的演技が発表会の期間中放映され、話題になったことが思い出されます。

していました。

自分が係わった発表作品で印象深いのは、ステージ上に座って感情を込めた“声だけの演技”では物足りず、セリフと一緒に動きもつけた芝居をやりたいと話し合い、カット割りした台本と、演技づくりにこだわって、ビデオカメラで撮影した、ライツワークセンター劇クラブの、ビデ



皆で盛りあがった「GOGO大会」



野球クラブの試合実演

利用者・職員が一緒になって、一年間コツコツと作り上げてきた作品を如何に沢山の人見てもうつか…工夫を凝らしてみんなをアッと言わせたい…、そんな意気込みと活気に溢れていた雰囲気が、現在にも負けずにはいたようでも懐かしく思い出されます。



十一月三日は、「文化の日」。そして

十一月上旬、蕎麦の産地でもある福井県内は、蕎麦の実の収穫時期の真っ只中です。

テーマに沿って、今回は、「一芸に秀てる」活動をされている職員を取材しました。

加藤：たまたまです（笑）
記者：蕎麦打ちには、段位があるとお聞きしました。先ほどの、話の戻つてしまいますが、加藤さんの蕎麦打ちは趣味のレベルではないような気がしますが。

一芸に秀てる者

記者：今回の加藤さんに取材をお願いしたきっかけが、テレビで蕎麦打ちの取材を受けていたシーンを見たことがきっかけだつたのですが・・・

加藤：私が入っている「蕎麦打ち同好会」では、毎年、新しい年を迎えると、神社に蕎麦を奉納する行事があります。その時に取材を受けたのが、テレビに流れてしまつて・・・

記者：烏帽子を被つていらつしゃいましたよね。その風格といい、かなり上手くないと奉納の蕎麦打ちなんてできないんじやないですか。

記者：そば打ちもそうですが、蕎麦道を極めようとしている先生

との出会いも大きかったんですね。

加藤：蕎麦打ちの人って、結構、こだわりが多いですね。こだわりと違うか、極める為に、たくさん努力をする。その輪に私も入らせてもらって、私自身も良い刺激を貰っています。



講師の先生の情熱みたいなものに惹かれて・・・。それからもっと勉強したいという思いが今に繋がっているんだと思

います。

普段の仕事の中でも、利用者の方との「ミニユニークーション」の場面などで、プラスになる事が多くあると話されています。



— 多芸に通ず —

加藤さんは、ライфтトレーニングセンターの看護師として、日々、利用者の方の健康管理等、利用者の方の日々の生活を支援されています。

記者：加藤さんは、手話も勉強されていますよね。

加藤：手話を勉強し始めたのは、七

年くらい前だったと思います。

始めたきっかけまでは覚えて

いないんですが、これもまた、

蕎麦との出会いの時と同じな

事は間違いません。



— 「一芸に秀でる者は多芸に通ず」 —

その意味は、ひとつ目の道を極めた人は、ほかの多くも身につけることができるという意味です。加藤さん本人は、「蕎麦打ち」については、まだ勉強中ですとお話されていましたが、まさに意味の通り、

ひとつの道をを極めつつ、「手話」というまた新たなもののチャレンジするその姿には、この言葉がぴったり合う気がします。

取材の最後に、こんな質問をしてみました。

記者：光道園の利用者の方に、そのご自慢の「蕎麦道」披露する機会は？

加藤：今は、機会はありませんが、そういう機会があれば、ぜひ。

コメントは控えめでしたが、蕎麦打ち職人としては、その情熱に火がついたかもしれません・・・。



のぞみ工房 陶華星

いつも光道園ライトワークセンター「陶華星」を御ひいきにして下さり、誠にありがとうございます。皆様、お待たせしました。来年の干支である「夢申(さる)」が完成いたしました。古来より申は山の賢者で、山神の使いと信じられてきました。信仰の対象としても馴染み深い動物であり、利口と好奇心を象徴すると言われています。また、今年度は、型を作成する「原型士」と呼ばれる職人を、ディズニーのキャラクターも作成したことがある「原型士」に依頼しています。かわいらしいものは今まで以上にかわいらしく、リアルなものは表情や毛並みがよりリアルで、形も複雑な型に仕上がっております。その為、生産の難易度が上がりますが、自信をもって皆様にお届けすることができます。今年度も例年通りに、置物(大)・(中)、プチさる、爪楊枝立て、干支皿の5種類をご用意しております。新年を迎えるにあたって、ぜひ陶華星の「夢申」をお買い求めください。

のぞみ工房 陶華星 〒916-8585 鮎江市和田町9-1-1 光道園ライトワークセンター内「陶華星」
TEL(0778)62-8103 FAX(0778)62-3775

おなかいっぱい フ・クレール

フ・クレールは、こめ粉を使ったパンにこだわっています。

こめ粉は福井のおいしいお米 こしひかり米をこめ粉にしたものを使っています。

こめパンは小麦のパンよりカロリー控えめのパンです。

お店で見かけたら超ラッキー！ぜひご予約ご注文承ります。



町内保育所の園児に好評
もちもちリングドーナツ
3個入り 140円



がっつり お腹いっぱい No.1
エビカツバーガー 160円



マスターード&ケチャップ別添え
あさひドッグ 160円

Fu.Clair
フ・クレール

新登場

手づくり工房 フ・クレール 〒916-0146 丹生郡越前町朝日1丁目504番地
TEL(0778)34-8801 FAX(0778)34-8831

社会福祉法人 光道園

社会福祉法人 光道園 法人本部
鮎江市和田町9-1-1

障害者支援施設 ライトワークセンター
鮎江市和田町9-1-1

障害者支援施設 光が丘ワークセンター
丹生郡越前町朝日22-2-2

障害者支援施設 ライトホープセンター
丹生郡越前町朝日22-3-1

障害者支援施設 ライフトレーニングセンター
鮎江市和田町9-1-1

日中生活介護事業 たねのいえ
鮎江市和田町9-1-1

障害者支援センター こうどうえん
鮎江市和田町9-1-1

養護老人ホーム 第一光が丘ハウス
丹生郡越前町朝日22-7-1

養護(盲)老人ホーム 第二光が丘ハウス
丹生郡越前町朝日22-7-1

特別養護老人ホーム 第三光が丘ハウス
丹生郡越前町朝日22-7-1

通所介護事業所 デイサービスセンターさざんかホール
丹生郡越前町朝日22-7-1

訪問介護事業所 ヘルパーステーションさざんか
丹生郡越前町朝日22-7-1

居宅介護支援事業所 さざんかホール
在宅介護支援センター さざんかホール
丹生郡越前町朝日22-7-1

越前町障害者支援センター さざんか
丹生郡越前町朝日22-7-1

共同生活援助事業所 とらいと
丹生郡越前町朝日1-505

就労支援事業所 フ・クレール
丹生郡越前町朝日1-504

<http://www.kodoen.or.jp/>
光道園